

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、長文を読解したり、自分の考えを説明したりすることに困難さを感じている児童が多い。

○意欲的に学習に取り組む児童が多いが、学習に対し苦手意識をもっている児童もいる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 各学年で身に付けなければならない知識・技能が全員が確実に習得できていない。
- 児童一人ひとりの考えを友達同士で交流する場面で対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる指導を工夫する必要がある。
- 本時のめあてが達成できたかを児童自身が振り返る時間は取れているが、書く内容の充実させるための工夫が必要。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 「板橋区授業スタンダード」と「紅梅小学習スタンダード」を徹底する。
- 主体的、対話的で深い学び、めあてと振り返りを基本とした授業改善を進める。
 - ・学力調査、RST、hyper-QU、MIMの結果をエビデンスとした学級全体、及び児童一人一人の学習状況の分析
 - ・交流授業、交換授業、教科担任制、合科授業等を活用したカリキュラムマネジメント
 - ・第1学年のスタートカリキュラムによる保幼小接続教育の推進
- 教科を越えた言語活動「伝え合い、学び合い、話し合い活動」を一層充実させる。
 - ・国語科を中心として論理的な話し方を身に付けさせるとともに、全教育活動で思考力・判断力・表現力を高める言語活動を充実させる。
 - ・言語活動を通して、自己の良さを見付けることができるようにする。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。 ○振り返りの視点を提示し、書く内容の充実をはかる。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面を設定する。INPUT→THINK→OUTPUTが授業の中に	○各教科等の学びを総合的な学習の時間と関連付け教科横断的な単元を組み立てる。 ○コミュニティスクール委員会に全教職

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアでは、コーディネーターを中心にエリア内で共通取り組み目標を設定し、授業規律等指導の共通化を図る。 ○9年間を教育課程の構築を図るために、総合的な学習の時間による交流活動に取り組む。	○総合的な学習の時間を中心に、探究的な学習「課題の設定→情報の収集→整理分析→まとめ・表現」を行う。また、この学習を繰り返し行い、探究的な思考の育成を図る。	○一人一台端末を活用し、話し合いの内容を共有したり、作品等を発表しあったりする。 ○デジタルホワイトボード機能、ミライシード等を効果的に活用し、個別最適な学び、協働的な学びを実践していく。 ○一人一台端末を活用し、自由進度学習を取り入れた実践をしていく。